

〔今秋改選期で北九州商工会議所会頭に15年ぶりにTOTO復帰か〕

MONTHLY
MAGAZINE

since 1958
おかげさまで
創刊

67年へ

財界九州

ZAICAIKYUSHU

4

2025
APR.

No.1206

九州・沖縄の“時流”を知る総合情報誌

TOP INTERVIEW

サニックス社長 宗政寛氏
「人のお困りごとの解決に携わって50年。
“次世代へ快適な環境を”提供し続ける」



地域強靱化

防災・減災への“備え”が不可欠に

テーマリポート



エリアリポート

福岡	アジア美術館を天神に拡張移転へ
北九州	安定と成長を模索するモノレール
佐賀	鳥栖市で駅周辺整備の協議本格化
長崎	順調なMICE誘致の強みと課題
熊本	国際線の拡充で熊本空港に存在感
大分	別府市が県内初の宿泊税導入検討
宮崎	県のスポーツ誘客が着々と進行中
鹿児島	山形屋の再生計画成立から約1年
沖縄	社会福祉5法人が連携し相互補完

<https://www.kyushu01.com/>

知を育む力



崇城大
小野 長門 学長

防衛大理工学部卒。東京工大大学院理工学研究科博士課程修了。92年熊本工業大（現崇城大）に入り副学長などを歴任。23年10月から現職

新カリキュラムが本格始動へ VUCA生き抜く人材も育成

リケジョや離島卒入試も 起業家やベンチャー育成

少子化が加速する中、大学のあり方が問われています。
 本学は24年度の定員740人に
 対して751人の学生が入学する
 など、全国の約6割の私立大で入
 学定員割れが起きている中、定員
 を充足できたことは大変喜ばしい
 ものがあります。しかし、大学と
 して生き残っていくには中長期的

な目標が必要であり、激変する社
 会のニーズに応えられるよう大学
 側の対応力が求められています。
 そこで本学は、23年度から28年
 度までを「第3期中長期計画」の
 推進期間として位置付け、同計画
 に基づいて学内の大改革を進めて
 います。その中で教育の目玉とな
 るのが「新カリキュラム」の策定
 です。キーワードとして「ポスト
 AI時代の知の拠点を据えこ」を
 掲げ、AI（人工知能）でも代
 替することができない「人間とし

た目線が必要であり、激変する社
 会のニーズに応えられるよう大学
 側の対応力が求められています。
 そこで本学は、23年度から28年
 度までを「第3期中長期計画」の
 推進期間として位置付け、同計画
 に基づいて学内の大改革を進めて
 います。その中で教育の目玉とな
 るのが「新カリキュラム」の策定
 です。キーワードとして「ポスト
 AI時代の知の拠点を据えこ」を
 掲げ、AI（人工知能）でも代
 替することができない「人間とし

交流、課題解決型教育
 などを推進しています。
 学生には、現在学んで
 いる学問と企業からの
 要望との関わりが身近
 に感じられ、より実践
 的な教育となっています。



その中で、
 TSMCの生産子
 会社JASSEMには
 本学の機械工学
 科やナノサイエン
 ス学科、情報学科
 から内定者を継
 続的に多く出してい
 ます。九州全体
 で見ると半導体
 関連産業における
 人材不足が大きな
 課題なのは明白です。機械・
 ナノサイエンス・情報の各学科の
 人材育成にも注力します。今のと
 ころ半導体に特化した学部構想
 はありませんが、23年度からカリ
 キュラムに半導体に関する入門科
 目を導入し、いずれは大学院も含
 めて体系的に半導体を学べる体制
 を構築していく考えです。

TSMCなど就職追い風 半導体関連人材にも強み

就職状況はいかがですか
 学部によって少し差はありますが
 が就職内定率は全国平均を上回
 っており、順調に推移しています。
 熊本はTSMC（台湾積体電路製
 造）の工場進出に伴う半導体関
 連企業の参入が旺盛なため、理工
 系学部を有する本学の需要は高
 いと感じています。

努力に報いる表彰制度 三位一体のキャンパスへ

貴学が掲げる「クレド」(ラ
 テン語で信条・約束)を教えてい
 ください。
 本学では学生へのサポートを通
 じ、学生自身が「創造・挑戦・感
 謝」を繰り返す事で学生の成長

への創造力」や激変する社会への
 柔軟な対応力などを身に付けるこ
 とを想定し、VUCA（予測困難）
 の時代を生き抜く人材の育成・輩
 出を目指します。
 また、学生募集にも力を入れた
 ます。例えば、次世代に活躍する女
 性の成長を目標に「次世代女子特
 別選抜」を新設しました。各学科
 に「リケジョ枠」を設け、社会で
 輝く女性へ成長できるキャリア環
 境を提供します。さらに、薬学部
 では「離島出身者の募集枠」を設
 けました。地域医療の担い手不足
 が叫ばれる中、本学が率先して取
 り組むことに、社会的意義がある
 と考えます。

新カリキュラムの内容を教 えてください。

先行して24年度に薬学部で新
 カリキュラムを導入しましたが、
 25年度から全学部のカリキュラム
 に適用していきます。具体的には、
 実学主義の体験型教育を積極的
 に取り入れ、学生自身の主体性や
 社会性、専門性などを伸ばす「理
 文」融合型のリベラルアーツ教育
 を導入します。世間一般では文理
 と表現するでしょうか、本学のル
 ーツは理工系学部から始まりまし
 たので「理文」としています。加

えて、学生が自身の夢や希望を実
 現する上で必要な知識・技能を専
 門分野の枠を越えて身に付ける教
 育を実施する。3次元カリキュラ
 ムへの改定も進めています。当然
 学生にとって未知の学修となるの
 で失敗や挫折もあるかもしれませんが、
 中長期計画では挑戦と失敗
 から学ぶ姿勢に代表される「レジ
 リエンス（精神回復力）」を養成す
 ることも明記していますので、学
 生には積極的に幅広い分野の学問
 を修めてほしいと思います。

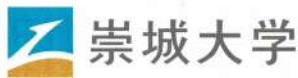
一方で、社会で挑戦できる人材
 を育む「アントレプレナーシップ
 教育」にも力を入れます。この言
 葉は本来ベンチャーなどの起業家
 精神を意味しますが、本学では起
 業だけでなく「新しいことに挑戦
 する考え方」として定義していま
 す。学生の可能性を広げる教育を
 展開し、起業を目指す学生を支
 援することで、既存概念にとらわ
 れない柔軟な発想や課題を解決に
 導くマインドの醸成に取り組み、
 熊本発・崇城大発の起業家やベ
 ンチャー企業も輩出していきます。
 一産官学連携にも力を入れて
 いく方針です。

現在、52の企業や地方自治体、
 大学と連携し共同研究、技術者

を促しています。その中で「感謝
 と笑顔のあふれる温かいキャン
 パス」を目指してさまざまな取組を
 進めており、その一つが、昨年12
 月で41回目を迎えた「笑顔と感
 謝の表彰制度」です。これは、建
 学の精神である「体」「徳」「智」
 のもと、主にサークル活動や各種
 大会で優秀な成績を取めたこと
 による「SOJOPOWER賞」、ポ
 ランティアや地域貢献に関する活
 動が対象の「SOJOスピリット
 賞」、資格取得や学会発表が対象
 の「SOJOブレイン賞」の三つ
 を表彰するものです。頑張りによ

いることは学生自身の成長に大き
 く寄与できますし、将来必ず役に
 立つものだと思います。
 「努力の見える化」は学生だけ
 でなく、教員にも門戸を広げてい
 ます。現在、教員向けの「ベスト
 ティーチング賞」と「ベストリサ
 ーチアワード」、「ベストプレゼン
 テーション賞」を設定しています。
 大学は、学生・教員・職員が三
 位一体となつて運営しており、そ
 れぞれが高い志とモチベーション
 を持つて幸せに過ごすことができ
 るキャンパスづくりに引き続き取
 り組んでまいります。

Outlines



崇城大学

1949年熊本市で創設された電気・電波学校を
 前身に、熊本工業短期大を経て67年熊本工業大。
 2000年大学名を崇城大に変更し、現在は工学部、
 薬学部、情報学部、生物生命学部、芸術学部の5
 学部9学科、大学院3研究科からなる。池田キャン
 パス（熊本市）のほか、工学部宇宙システム工学
 科のエアラインパイロット養成の拠点として、熊本
 空港隣接の空港キャンパス（熊本県菊陽町）もある。
 学校法人「君が淵学園」が経営母体。建学の精神
 は「体・徳・智」。君が淵は体・徳・智の優れた君子が
 自ら相集まって淵をなすの意。昨今はネイティブ教
 員常駐の英語学習施設 SILC を拠点とするグローバル
 教育、パイロット・航空整備士養成、起業部などア
 ントレプレナーシップ教育で存在感を高めている。

